

# 開校記念日によせて 〔成功って何〕

東京大学文科三類 一回生 後藤 駿嗣

令和二年度特別進学コースⅢ類卒業  
倉敷市立庄中学校出身

みなさん、こんにちは。私は、東京大学文科三類一回生の、後藤駿嗣と申します。今回、明誠学院高等学校の開校記念日を迎えることができたことを大変嬉しく思います。そして、このありがたい機会をいただいて、みなさんを全力で励まし、勇気づけようと思い、「東京大学を目指すことになったきっかけ」と「成功」についてお話をさせていただきます。

入学してから「勉強してなんか意味あるん?」「大学とか行く意味ある?」「自分らしさってなんなん?」「やりたいたことが誰にも認めてもらえない」「将来どうやって稼ごうか?」「そもそもなんのために生きてんの?」などあげたらキリがないほど悩みを抱えて過ごしていました。同じような悩みがある人もいるんじゃないでしょうか。そんな悩みと闘う中で僕なりに見つけた答えや、卒業した今、悩みを抱えていたころの自分にかけてあげたいアドバイス、そんなことを話したいと思ってます。ただあくまで僕の意見です。合わない人がいて当然ですし、いいなと思えるところだけ取り入れてくれれば嬉しいです。

入学したばかりの頃は、往復二時間の自転車通学をしながらⅢ類の授業を受けることに苦労していました。一期、通学路にある自動車の整備工場に、僕の好きなボルシェとかコルベットとかあって、それに興味を持ち、自動車の勉強をしたこともあります。その勉強については親を含め、誰も自分を応援してくれませんでした。当時の私には、それがなぜなのか全くわかりませんでした。みなさんもこういった経験はありますか。「漫画家になりたい」「島に行ってダイビングスクールやりたい」など、自分の想いを理解してもらえず応援されなかったり反対されたりしていませんか。では、なぜ親や先生は反対するんでしょうか。答えは「結果を出していないから」。結果を出していないから、口だけじゃないか、と思われて「とりあえず勉強」と言われるわけです。

私は気づきました。それからは「とにかくこの三年間で何か結果を出せ。結果を出すための三年間だ」というように思いました。そして、自分がやりたいことをやりたいようにするには、まずは勉強をしなければならぬ。そのことに気づき、やりたいことをするために大学に行くことを決めました。先生の勧めもあって、日本中のだれもが知っている「東京大学」に行こうと決めました。

無謀な挑戦だったと思いますが、十八年の人生の中で一番楽しい時間でした。自分の手が届くかどうかかわからないものを目指す、その過程がすごく楽しかったことを覚えています。「無理でしょ」とも言われました。東京大学にむけた勉強を続けて「頑張れ」とも言われました。文転を決めた私はいろんな先生にお願ひし、その先生方からのサポートもあって世界史の勉強ができたり、スタディサプリの活用をしたり、とにかくいろいろしましたが、時間は全く足りませんでした。東大模試、進研模試、全統記述模試など受験しましたが、結果はよくありませんでした。東大模試では□判定が続きました。それでも、「僕はあの東京大学を目指している」それだけでワクワクして仕方ありませんでした。辛いこともありますが、何かを目指すときに辛くてやめたくなくなる時は「口だけの人が五割、続けない人が四割、やり抜く人が一割」ぜひこの言葉を思い出してください。

最後に、自分を信じて今この瞬間にやるべきことをやると決めたそのとき、人生は成功すると私は思います。私は自分が嫌いでした。何をやっても続かず、あまりに協調性がなくて友達が少なく、変に尖ってる自分が嫌いでした。けれど東大を目指している時、自分を好きになれました。受験をしたからいえることですが、受験勉強には絶対に価値があると確信しています。ドラゴン桜みたいですが、やりたいことがない人、自分のことが嫌いな人、ワクワクする高校生活を過ごしたい人、みんな東大目指せばいいのにつて本気で思います。高校生になってまで、「親が:」とか「友達がやってたから」とかいうのはもうやめにしましょう。結局、「ほんとはこうしたかったけど」とかいう言い訳が生まれて失敗していきます。自分の人生、全ての責任は自分にあります。だから高校三年間を何にかけるのかなど本当に大事なことは、絶対に自分で決めてください。ただし、人間は迷う生き物ですから、たくさん相談すればいいと思います。考えてから動くのは遅いのでチャンスを逃さないためにも、「頭をフル回転させ、チャンスを掴んでください。その瞬間人生の成功となります」。

明誠学院高等学校のみなさんが最高の高校生活を送れることを心から願っています。